

2025 年度 日本看護協会 オンデマンド研修プログラム

研修名	外来における在宅療養支援能力向上のための研修 【2023 年度制作】
研修目的	・外来看護を取り巻く現状と課題のもと、地域における自施設の外来が果たすべき役割と、自らが外来で担うべき役割を認識するとともに、外来患者を支えるために必要な在宅療養支援に関する知識を習得できる。 ・習得した知識を、在宅療養支援の強化に向けた取り組みに役立てることができる。
研修目標	①講義を通じて、外来看護を取り巻く現状や国の政策について理解することができる。 ②所属施設の医療機能や地域の実情等から、地域で切れ目ない在宅療養支援を行う上での、自施設が担うべき役割を理解することができる。 ③①及び②を踏まえて、演習によって、在宅療養支援における自身の役割や課題に対する認識を深め、実践力の強化につなげる機会とする。
主な対象	外来勤務の看護職 （常勤や非常勤等の雇用形態、また、短時間勤務等の勤務形態は問わない。救急外来勤務も含む） 看護実践能力習熟段階Ⅱ

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	時間
1	外来看護を取り巻く現状と課題、国の政策動向等に基づく外来看護職の役割 1. 外来看護を取り巻く環境の変化 2. 外来医療に関する政策動向 3. 社会の変化と政策動向に基づく外来看護職の役割	吉川 久美子 (前 公益社団法人日本看護協会 常任理事)	26 分
2	外来における在宅療養支援 1. 在宅療養支援とは 2. なぜ在宅療養支援が必要か 3. 在宅療養支援を担う看護職の役割	永田 智子 (慶應義塾大学 看護医療学部 教授)	47 分
3	在宅療養を支える地域連携とネットワーク 1. なぜ地域連携が必要か 2. 地域との連携体制構築の方策	吉田 千文 (常磐大学 看護学部 教授)	42 分
4	在宅療養患者(外来患者)の意思決定支援 1. 意思決定の現状と課題 2. 外来看護職に求められる意思決定支援	藤井 淳子 (東京女子医科大学病院 家族支援専門看護師)	40 分
5	在宅療養患者(外来患者)を支える社会資源 1. 在宅療養患者が活用可能な社会資源の基礎知識 2. 地域における多職種の連携・協働の実際と推進の必要性	松本 明子 (医療法人社団聖カタリナ病院 ナースマネージャー)	39 分

※収録時点の講師の所属・職位を記載しています

⇒次頁へ続く

事前課題

日本看護協会オンデマンド研修によるすべての講義を受講後、演習実施前までに下記の①②、または①③について、各自がまとめる。(A4 1～2枚程度)

- ①地域における自施設の役割と外来看護職として自らが担う役割等について
- ②外来看護に関する実践事例
- ③外来における療養支援について自身が感じている課題

演習:150分

下記に沿った内容で、都道府県看護協会にて実施

主な内容
オリエンテーション
講義 「地域の現状や自施設を取り巻く状況等について」
事例検討 グループディスカッション
全体共有 グループからの報告及び質疑応答・意見交換